特集 未踏ユースから育ったタレントたち 13

発掘し，育成し，つなぐ場所

大島 聡史　東京大学情報基盤センター スーパーコンピューティング研究部門

正会員．1982 年生．2009 年 3 月電気通信大学にて学位取得（博士，工学），同年 9 月まで同大学にて博士研究員，同年 10 月より現所属．博士前期課程時より GPU を用いた並列計算の研究に従事．ohshima@cc.u-tokyo.ac.jp

私が未踏ユース開発者として活動していたのは 2006 年，電気通信大学（以下，電通大）の博士後期課程 1 年次の頃である．今日では特に HPC（High Performance Computing）の分野において流行となっている「GPU（Graphics Processing Unit）を用いた汎用計算（GPGPU，General-Purpose computing on GPUs）」に関するライブラリ開発を行った．未踏ユース OB となってからは，電通大にて学位の取得および研究員としての活動をした後，現在は東京大学の情報基盤センターにて助教の職に就いている．研究分野は GPGPU であり，現在でも未踏ユースで行った活動の延長にいるといっても過言ではない．本記事では未踏ユース OB として未踏ユースのイベント等に参加して思ったことなどをいくつか紹介する．

未踏ユースは境界を越えた議論やコラボレーションが生じる場である（**図 -1**）．若い学生にとっては同年代の尖った仲間が多く集まる機会が得られることはきわめて重要である．それと同様に，PM（プロジェクトマネージャ）や未踏ユース OB らも加わり専門分野や立場・肩書きの境界を越えて議論を交わしやすい場が提供されることも重要だと感じる．そこから生じた力が何を生み出すかについては他の記事にたっぷり書かれているはずである．

私の母校である電通大は未踏ユース採択者を多く輩出している．その大きな要因としては特定のサークルや研究室から多くの学生が採択されたことが挙げられ，やる気と実力のある仲間を未踏ユースに誘う流れが形成された結果であろう．また我々電通大未踏ユース OB の一部においては，母校から優秀な後輩を発掘することは自分たちにとっても大学にとっても好ましいと考え，「電通大未踏支援組織」という有志の集まりを結成した．ここでは未踏ユース採択を志す学生に対して若干のアドバイスなどを行ったり，電通大の学園祭に合わせて未踏ユース OB による講演会などを開催した．これらの活動も採択数に多少は貢献したのかもしれない（残念ながら，主な有志が電通大を卒業・修了してしまったため現在この組織は活動していない）．

図 -1　未踏ユースのイベントにて夜遅くまで議論を交わす参加者たち

GPGPU 関連の未踏ユース採択プロジェクトについて PM 補佐としてヒアリングに参加し，プロジェクトを採択し助言する側の立場にかかわったことがある．今後も未踏ユースというプロジェクトが長く続けば，OB が PM など未踏ユースを動かす立場になり，新たな形で未踏の輪ができるかもしれない．

改めて考えてみると，やはり未踏ユースは人のつながりが重要な場であり，私たちもこの素晴らしい場に素晴らしい人材が増えるよう，未踏の輪が広がるように活動してきた．今後もさまざまな大学やコミュニティにおいて未踏の輪が広がることを望みたい．さらには博士課程へ進学したり学会・研究会でも活躍してくれる優秀な学生や研究者が増えることにも期待したい．

現在私が職に就いている HPC の世界は ExaFLOPS（エクサフロップス，1 秒間に 10 の 18 乗 =100 京回計算を行うことができる性能）級のスーパーコンピュータを作るというまさに「未踏の地」に踏み込むための戦いを始めており，私もこの戦いに微力ながらかかわる立場にいる．他の多くの未踏ユース OB もそれぞれの立場で新たな「未踏の地」へと進もうとしていることだろう．未踏ユースのように若手少数による短期間の戦いばかりではないと思うが，新たな未踏の地を踏破できるよう頑張っていきたい．

（2011 年 9 月 16 日受付）